

## 日本の労働者協同組合の実践と原則討議への提案

### CICOPA (ICA労働者生産委員会) 第4回世界会議への提案

1994年6月6日～10日 スペイン・ビットリア市 日本労働者協同組合連合会

ICA (国際協同組合同盟) は第30回世界大会を1992年10月東京で開催し、昨秋、第1回アジア・太平洋地域総会を開催し、新たな社会経済システムを模索する世界情勢にあつて、世界の協同組合運動の意義と役割を見直す本格的な取り組みにかかっています。CICOPA (ICA労働者生産委員会) は6月6日～10日に第4回世界会議をスペイン・ビットリア市にて開催し、労働者協同組合の将来展望と1995年のICAマンチェスター大会での協同組合原則改定への論議をおこないます。

日本労働者協同組合連合会は、この第4回世界会議へ日本の労働者協同組合の実践紹介と協同組合原則討議への提案を、ここに掲載した文書にもとづきおこないます。世界会議については、6月25日、協同総研第4回総会に引き続いておこなわれる「労働者協同組合世界会議報告集会」の場で、そのもようを報告していただきますので、会員の皆様のご参加をおまちしております。

### はじめに

日本の労働者協同組合は、次の「労働者協同組合7つの原則」を軸に運動を展開してきた。

1. 「徹底民主主義」を通じて労働者が企業の主人公になる
2. よい仕事をし、まちづくりに貢献する
3. みんなで出資し、事業計画をつくり、仕事を拡大して、生活を向上させる
4. 労働と教育を基礎に「自立と協同と愛」の人間に成長する
5. 全国的観点と変革の立場に立って協同組合運動を発展させる
6. 労働組合運動や地域の運動との連帯を強める
7. 人類の危機を克服する運動を進め、国際連帯を強める。

この原則の上に、事業と就労機会を年々拡大し、最近では「労働者協同組合グループ」の広がりの中で、消費財からハイテク製品に至る、生産の領域へも本格的な挑戦を始めている。折からの不況と失業・雇用不安の増大の中で、労働者協同組合

による新たな仕事おこしの実績は、マスコミや世論からも注目を集めている。

本報告では、「働く者自身による仕事おこし」を労働者協同組合の核心的な課題ととらえる立場から、日本の労働者協同組合の仕事おこしの実践を報告するとともに、労働者協同組合の原則討議にとって重要であると思われる点を述べて、提案としたい。

### 1. 仕事おこしへの現代的要請

不況と失業・雇用不安の広がりの中で、いま日本の労働者と国民の意識も、大きく変化しつつある。第1に、就労機会への要求が、働きたいある仕事の創造への要求と一体となって高まりつつあることである。第2に、安全で安心な食糧をはじめとする「本物」へのニーズが高まり、個人的消費の拡大というよりも、福祉やリサイクル、教育・文化など社会的システムの確立による生活の質の向上への要求が高まっていることである。

現代の「仕事おこし」は、営利主義を乗り越えて、こうした就労への要求と「本物」へのニーズを結び付けることに他ならない。労働者・国民は、こうした仕事おこしの力量を、すでに立派に蓄え

ている。そのことは、労働者協同組合の実践の中で確認されてきたことでもある。

## 2. 労働者協同組合の仕事おこし

1) 日本の労働者協同組合は、仕事おこしにおいても、次のような労働者協同組合らしい方法を追求しながら、活動している。

\*公園の現状を組合員が自ら調査し、市民のための公園づくりを設計し、提案する

\*ヘルパーを自ら養成し、チームを編成し、集団的に仕事の内容を検討し質を高めながら、仕事の公共性を認知させる

\*高齢者協同組合や子育て協同組合など、サービスを必要とする人たち自身が主体となる協同化を進め、これと連携して労働者協同組合がサービスを供給する

\*環境保全型製品や靴などでは、製品を必要とする人たち自身に開発や普及に参加してもらう

\*ごみ・資源リサイクルや地域の医療・福祉ネットワークのように、地域のネットワークや社会システムを、労働者協同組合が先頭に立って形成し、仕事の質を高め、「労働コストの削減」ではなく「社会的コストの削減」を追求する。

\*とくに生活協同組合や医療生協との提携、農産物の生産者・消費者双方との結びつきなど、協同組合間提携の優位性を活かすことである。

2) これらをつらぬく労働者協同組合の仕事おこしの思想を、次の様に要約することができる。

- ①「人と地域が必要とする仕事をおこし、継続的な事業として成り立たせ、その仕事を社会の発展に役立つものに高めていくこと」を基本に、
- ②協同組合セクターや地域自治の発展と結び付いたネットワークの拡大の中で事業の発展を追求し、
- ③その実績の上に労働者・国民の「仕事をおこす権利」を公的に認知させ、それを社会的に保障させることをめざして活動することである。

## 3. 組合員＝労働者が主人公となる

### ことが「仕事おこし」の根本

1) 仕事おこしの主体は、組合員＝労働者である。換言すれば、仕事おこしが組合員＝労働者の欲求と行動になったときに、仕事おこしは初めて本格的に成功する。このために、日本の労働者協同組合は、「徹底民主主義」を通じて「労働者が主人公になる」方向に向けて努力を続けてきた。

2) その核心は次のような「全組合員経営」である。

①必要な資金は、出資と労働を通じて、全組合員でつくりだす。

②全組合員の知恵と情報を出し合って、組合員の要求と意欲に支えられた事業計画を作成する。

③事業拡大、および労働者協同組合を知ってもらう行動に、全組合員で取り組む。

④経営の発展の中で、自らの労働条件を改善するとともに、新たな仲間のための就労機会を年々拡大する。

3) 「情報の共有」にもとづく徹底した話し合いと学習教育を基礎に、仕事の形態を労働者自らが形成し、労働者協同組合の事業・運動の意義を、組合員が広い社会的視野からとらえていくことを重視すること。あわせて「自立と協同と愛」につらぬかれた「組織の文化」の確立に努めている。

## 4. 仕事おこしを大きく支える

### 「協同」運動の展開

労働者協同組合は、現代社会における「協同」の意義を問いかけ、考え、話し合う次のような運動にも精力的に取り組んできた。

①全国と地域における「協同を問う」集会。ここには生活協同組合をはじめ、様々の協同運動、また労働運動、市民運動の担い手が参加し、交流している。

②協同運動の思想と政策を研究する研究協同組合——「協同総合研究所」の設立。

③労働者協同組合独自の「自治体要請行動」。自治体と労働者協同組合が連携して地域に役立つ

事業をおこすことを目的とするものである。

④映画『病院で死ぬということ』の共同制作と上映運動。これと結んだ、高齢者問題や人間らしい地域づくりについての懇談。

⑤雇用・失業問題の深刻化に対する、全国縦断シンポジウム「雇用不安と労働の未来」の開催  
—これらの取り組みは労働者協同組合と「協同」への共感と合意を拡大し、労働者協同組合の仕事おこしにも、大きな力となっている。

## 5. 労働者協同組合の原則討議への提案

以上、まだささやかな経験であるが、「労働者協同組合7つの原則」とその実践の中には、世界の労働者協同組合の仲間と共有できるテーマが含まれているように思われる。今回の大会および今後の労働者協同組合原則の世界的な討議において、次の点を考慮していただくよう提案して、結びとしたい。

1) 労働者協同組合組織の基本性格は、「労働者が企業の主人公となる」ことではないか。すなわち、搾取・被搾取、支配・従属関係を克服し、労働者自身が仕事をおこして、企業の所有・経営・管理の主体となることである。

2) 労働者協同組合の運営の基本に「徹底民主主義」を置くべきではないだろうか。すなわち、決定への参加にとどまらず、「情報の共有」と学習を基礎に、組合員が事業・経営と運動の全過程に主体的に参加することである。

3) 労働者協同組合の事業の基本に「よい仕事」を据えること。すなわち、働く者にとって人間的で働きがいを感じられ、社会的・環境的に有用な仕事。生活様式の変革を提案しながら、地域づくりに貢献し、利用者と共に感をもって結ばれる仕事である。

4) 労働者協同組合の経営の基本を「全組合員経営」に置いてはどうか。すなわち、組合員が資本形成から事業計画の作成と実行の主体となり、剰余金を労働条件の改善と自己資金の形成に自覚的に配分することである。

5) とくに剰余の一定部分を仕事おこしに配分し、地域の人々に就労機会を提供する「社会的連帯」性を重視すべきであると考える。

6) 労働者協同組合における教育・文化の基本を、「自立と協同と愛の人間発達」と表現してみた。すなわち、「主人公」たりうる情報処理・意志決定能力を育てるとともに、「自立と協同と愛」の人間性を育て、それにもとづく「組織の文化」を発展させることである。

7) 協同組合間協同を推進し、協同組合セクターの確立・発展を労働者協同組合が意識的に進めること。協同組合セクターの拡大・強化により経済・社会システムの民主化を推進すること。

8) 経済・社会システムの民主主義的変革のためにも、協同組合運動内部で閉鎖的に完結することなく、労働組合運動や市民運動など、他の民主主義的大衆運動との連帯を積極的につくりだすこと。

9) 仕事おこし・地域づくりに果たす労働者協同組合の公共的役割についての社会的認知と、「仕事をおこす権利」や「企業と地域の主人公になる権利」の実現を求めること。「公協コンプレックス」の形成は、福祉社会と労働者協同組合の双方の発展にとって不可欠の課題となっている。

10) 「人類の危機」を直視し、これを克服するグローバルな連帯・協同・変革の運動を担うことが明記されるべきではないか。

以上、世界の労働者協同組合の仲間の皆さんから、われわれの見解に対する率直な意見がいただければ幸いである。